

2025

1.15 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_GPfr8ISzQLK4530WiBC1bg

【技術支援】九州大学 Q-AOS

生物季節(フェノロジー)とBVOC



Key Words

生物リズム

フェノロジー

気候変動

植物

遺伝子

ゲノム

予測

突然変異

佐竹 暁子 教授

理学研究院 生物科学部門

九州大学理学部を卒業し、2002年に九州大学大学院理学研究院で博士(理学)の学位を取得しました。その後、学術振興会特別研究員として、米国ペンシルバニア州立大学、京都大学、米国プリンストン大学に留学した後、スイス連邦工科大学水圏研究所グループリーダーとしてスイス・ルツェルンで1年間過ごしました。2008年に帰国し、北海道大学助教、准教授、JST さきがけ研究員、九州大学准教授を経て、2018年より九州大学教授として数理生物学研究室を運営しています。2023年から日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員として、科研費や若手育成事業に従事するとともに、学術変革領域(A)「植物気候フィードバック」の領域代表として、植物が放出する揮発性有機化合物(BVOC)を介した植物と気候とのフィードバックという学際的な研究を進めています。

森林生態系は、地球上の生物多様性の中心であり、気候調節や炭素循環などの重要な生態系サービスを提供しています。その中で、生物季節(フェノロジー)は、生物の季節的な活動パターンを示す指標として、気候変動や環境変化の影響を評価する上で重要な役割を果たしています。本セミナーでは、特に森林樹木の開葉や落葉、開花、種子散布などの生物季節の現象に焦点を当て、これらが気候や生物多様性にどのように影響を及ぼすか、また生物由来の揮発性有機化合物(BVOC)を介した植物フェノロジーと気候とのフィードバック研究について紹介します。